



輝け！北っ子！

2学期 ここが変わります

2学期がスタートして、学校に子ども達の元気な声が戻ってきました。1学期は新型コロナウイルス感染症という未知なるものへの対応を迫られ、とにかく「3密回避」を第一義としての取り組みを実行してきたつもりです。2学期は、まだまだ予断を許さない状況であり、子どもを感染症から守ることは最優先事項ではありますが、1学期の反省に立ちながら、コロナ禍における教育活動の充実を考え、取り組んで参ります。2学期開始にあたり、昨年度までの通常の時間割に戻しました。具体的には以下のような点の変更になります。



- 朝20分間の「補充の時間」は 10分間の「読書／パワーアップ」の時間へ
授業時間の確保、学習内容の定着にむけた取り組みにより、通常の形に戻しても十分対応できるものとの判断から。
- 低・中・高学年別にはばばらにとっていた20分の長い休み時間は 全校一斉に 2校時終了後に
全校生が一斉に休み時間にしても、概ね3密は回避できること、ばばらに休み時間をとることでの多学年をまたぐ活動のしずらさの解消を。
- 全日学級清掃を月・水・金曜日の縦割り班による全校一斉清掃に
学級清掃でなかなか行き届かなかった箇所も、全校生による一斉清掃できれいに。縦割り班活動で他学年との交流を。
- 昼休み時間を45分
十分な休み時間・活動時間の確保。リフレッシュに。

ちょっといい話 ～やさしさは「癒やし」～

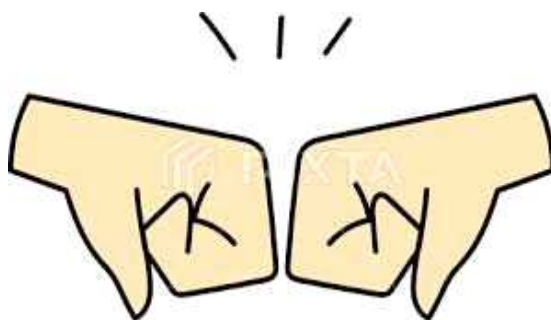
2学期の始業式の話の中で、私自身の今年の夏休みの思い出として「蜂に刺された」ことを話しました。刺されたのが夏休み終了直前だったこと、始業式がTV放送だったこともあり、刺されて腫れている右手を子ども達に見せながらこれからの時期の蜂への注意喚起を促しました。

そうして迎えた下校時刻、いつものように子ども達を正門で「(エア)グータッチ」で送っていると、一人の女の子が私の拳にむかって、ちゃんと人差し指で軽く触れたのでした。

「あれ？」っと思っていましたと、その子は、こんな言葉を掛けてくれたのでした。

「手が腫れていて、痛そうだから、そっと触るね。」
何という優しさでしょう。痛み・かゆみを忘れるとはまさにこの瞬間のことかも知れません。

「痛い の 痛い の 飛んでいけー」と親が子どもに声を掛けると、不思議と子どもは泣き止んだり、我慢できたりすることがありますが、私も何十年かぶりにその感覚を思い出したようにも思えました。



pixta.jp - 62753850

保護者の皆様からの声をお待ちしています。

～学校に対するご意見・ご感想等お気軽にお寄せください(または assist.nihonmatsukita-e@fcs.ed.jp まで)～

..... 切 り 取 り 線